

《鳥取城年表》

時代		主な城主など	年号	出来事
戦国時代	室町時代	山名誠通	16世紀中頃	この頃、久松山に但馬山名氏によって砦が築かれる。
		武田高信	1562年(永禄5)	武田高信が久松山を拠点として、因幡守護の山名氏に反逆する。
	山名豊国	1573年(天正1)	武田高信を退けた因幡守護山名豊国が、布施天神山城から鳥取城に本拠地を移転する。	
		1580年(天正8)	羽柴秀吉の第1回鳥取城攻め。山名豊国、降伏するが、毛利方が鳥取城を再奪還する。	
安土桃山時代	吉川経家	1581年(天正9)	羽柴秀吉の第2回鳥取城攻め。兵糧攻めの末、吉川経家の切腹で毛利方降伏する。	
	宮部継潤		新たに入城した宮部継潤が鳥取城を近世城郭に改修する。	
江戸時代	宮部長房	1600年(慶長5)	関ヶ原合戦に伴い西軍に与した鳥取城が攻撃される。	
	池田長吉・長幸		池田長吉が城主となる。	
	池田光政	1617年(元和3)	池田光政が城主となり、鳥取城が鳥取藩32万石の居城となる。	
		1619年(元和5)	この頃、城と城下町の大改修が行われ、現存する城跡の景観が整う。	
	鳥取池田家	1632年(寛永9)	池田光仲が城主となる(鳥取池田家の成立)。やがて鳥取城下に水道施設が整備される。	
		1692年(元禄5)	天守が落雷により焼失し、以後再建されず。	
		1718年(享保3)	三ノ丸の拡張が行われ、藩主(城主)の居所が二ノ丸から三ノ丸へ移る。	
		1720年(享保5)	城下の大火(石黒大火)により鳥取城も延焼する。	
		1721年(享保6)	三ノ丸を中心に再建が開始され、3年後に完成する。	
		1728年(享保13)	石黒大火で被災した二ノ丸三階櫓石垣の修理が完了する。	
		1735年(享保20)	二ノ丸の三階櫓、走櫓は再建されるが、御殿は再建されず。	
		1807年(文化4)	この頃、天球丸の巻石垣が築かれる。	
		1825年(文政8)	幕府より屋根瓦に葵の紋を用いることを許される。	
		1846年(弘化3)	二ノ丸の御殿、菱櫓、表御門など再建され、一時的に藩主の居所が三ノ丸から二ノ丸へ移る。	
		1849年(嘉永2)	二ノ丸が西方に拡張される。	
		1858年(安政5)	三ノ丸の南側に粉蔵が建てられ、城域が拡張する。	
	1861年(文久1)	三ノ丸が拡張される。		
	1863年(文久3)	扇御殿、宝隆院庭園(現存)が造営される。		
	1867年(慶応3)	西坂下御門(現・復元門)が創建される。		
	近現代	明治政府	1871年(明治4)	廃藩置県後、兵部省の管轄となり、政庁の機能が城外に移転する。
1873年(明治6)			廃藩令で軍事上の必要性が認められた鳥取城は、存城となり、陸軍省の所管となる。	
1875年(明治8)			陸軍省によって不要な71棟の建物が解体撤去される。	
1877年(明治10)			姫路歩兵隊の分遣隊派遣が決定し、三ノ丸御殿等を転用した兵舎が整備される。	
1879年(明治12)			西南戦争終結後、治安安定により分遣隊の撤退が決定。それまでの城内に残された大型建造物(二ノ丸三階櫓等)が解体撤去される。	
旧藩主鳥取池田家		1889年(明治22)	陸軍によって中学校用地として鳥取県へ無償貸与され、三ノ丸に尋常中学校が建つ。	
		1890年(明治23)	陸軍から旧藩主鳥取池田家へ城跡の払い下げがなされる。	
		1907年(明治40)	扇御殿跡に仁風閣が建つ。	
		1923年(大正12)	久松公園開設。翌年、城代屋敷跡に鳥取公設運動場(現・鳥取県立博物館敷地)開設。	
		1936年(昭和11)	久松山全山が市民に開放される。	
鳥取市	1943年(昭和18)	鳥取大震災で被災する。翌年、城跡が旧藩主鳥取池田家から鳥取市へ寄贈される。		
	1957年(昭和32)	国史跡に指定される。		